

MIC かながわが主催した『医療通訳フォーラム 2013 in かながわ ～地域でともに生きるために～』
が、7月13日(土)に盛況のうちに終了しました。
ご参加、ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

医療通訳フォーラム 2013 in かながわ ～地域でともに生きるために～

主催：特非 多言語社会リソースかながわ (MIC かながわ)
後援：神奈川県、財団法人自治体国際化協会 (CLAIR)、公益財団法人かながわ国際交流財団 (KIF)
協力：医療通訳士協議会 (JAMI)
助成：神奈川県社会福祉協議会 (ともしび助成金)

日時：7月13日(土) 13:00～17:00

会場：かながわ労働プラザ

参加者：フォーラム 154名

(パネリスト、招待者含む)

交流会 77名



第2部 パネルディスカッション ⇒

医療通訳を派遣している団体を愛知県、京都市、兵庫県、北九州市、神奈川県より招き、発表とパネルディスカッションの二部構成で行いました。各地域の状況、医療通訳派遣システム構築過程での苦労、システムの形、抱える課題等を、全国各地からの参加者が共有しました。

(パネリスト敬称略)

1【愛知県】医療通訳者ネットワーク東海 (MINT) 元 愛知県多文化共生推進室 大橋充人
運営主体：あいち医療通訳システム推進協議会 (県医師会、病院協会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、愛知県、愛知県内市町村、愛知県立大学、愛知大学、名古屋外国語大学、名古屋学院大学、事務局：愛知県地域振興部国際課多文化共生推進室)
運営事務局：(株)ブリックス

大きな特徴は、行政が民間企業に派遣事業を委託しているところです。24時間電話通訳を行っている会社なので、医療現場で緊急に通信が必要となった場合も対応できます。通訳者の募集には743名の応募があり、その中から約90名が合格しました。

2【京都市】NPO法人多文化共生センターきょうと 理事長 重野亜久里
運営主体：京都市、京都市国際交流協会、多文化共生センターきょうと
運営事務局：多文化共生センターきょうと

医療通訳において①通訳者の派遣、②通訳者の養成、③コンピューターやスマートフォンなどのICTを活用した多言語医療支援システムの開発と提供という3つの柱で活動しています。医療通訳者はかなり長い時間をかけ研修を行い、特徴のひとつは、コーディネーターが現場に同行することです。

3 【神戸市】NPO法人多言語センター FACIL 理事長 吉富志津代

運営主体：協定病院（神戸市立の3病院）、多言語センター FACIL

運営事務局：多言語センター FACIL

登録者は他の分野で通訳の仕事をしている人が多く、そういう方たちが、対価としては安いけれど意義を理解して医療通訳に協力しています。医療分野の専門性を磨いて、使命感をもって関わっています。

4 【北九州市】済生会八幡総合病院 地域連携室 霜田治喜

北九州国際交流協会 矢野花織（第2部パネルディスカッション）

運営主体：北九州地域医療通訳派遣運営協議会

（北九州市、北九州国際交流協会、北九州市民通訳協会、済生会八幡総合病院、北九州国際交流団体ネットワーク）

運営事務局：北九州国際交流協会

済生会病院は設立経緯から生活困窮者支援事業を積極的に行っています。その中で、八幡総合病院では在留外国人の支援を行おうということになり、国際交流協会と協働して通訳事業に結びつけました。医療機関側が積極的に参加して事業を行っているのが特徴です。

5 【神奈川県】NPO法人多言語社会リソースかながわ

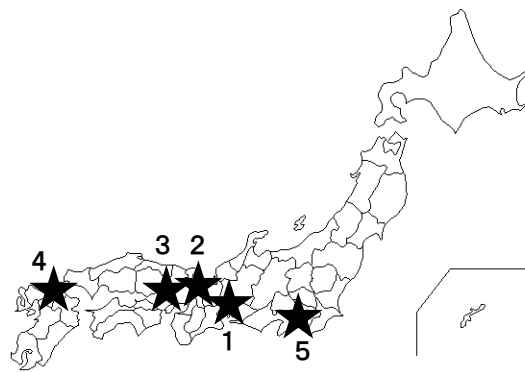
(MICかながわ)

運営主体：医療通訳派遣システム自治体推進協議会（神奈川県および県内市町）、県医師会、県歯科医師会、県薬剤師会、県病院協会、MICかながわ

運営事務局：MICかながわ

神奈川県の特徴は在住外国人の国籍の多さです。

2012年度は県の派遣システム事業の派遣件数だけでも3,600件を超えており、全国一の実績を誇っています。依頼に応じて適切な判断をし通訳を派遣するコーディネーターの存在が、通訳派遣システムの大きな支えとなっています。



韓国釜山からの参加者、「(社)移住民とともに」付設 移住民通訳翻訳センターLINK のハン・アルムさんから、短い時間ながら釜山での取り組みを聞くことができました。言語通訳センターを作る際には、MICかながわも調査に協力した経緯があります。

第2部のパネルディスカッションでは、MICかながわ理事の沢田貴志がファシリテーターを務めました。事前に収集した参加者からの質問は大きく4つのテーマに分けられ（①システム構築、②通訳の質の確保、③通訳の身分保障、④多様なニーズへの対応や医療通訳の認知）、テーマに沿って議論が進められました。

その地域その地域に適した形があること、制度を作り上げるための苦労は並大抵のことではないということがわかりました。諦めずに努力を続けていけば、どこかで何かにつながる、という希望を感じることができました。これから医療通訳派遣システムを作ろうと考えている地域に、今回のフォーラムがお役に立てたら幸いです。